

教育プログラムの名称 : 安全農産物生産学

授与する学位の名称 : 学士（農学）

【教育目標】

山形大学及び農学部教育目標を踏まえ、教育プログラム（安全農産物生産学）では、農業生産現場で、気候変動に対応した環境保全型農業における諸課題を科学的に解決でき、安全な農畜産物の持続的かつ安定的な生産を技術的に指導できる人材を育てるため、フィールド中心の体験的な実験・実習を重視し、安全な農畜産物の循環型生産に関する科学的な理論の構築と実践的な技術を修得することを目標としています。

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

山形大学及び農学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、教育プログラム（安全農産物生産学）では、基盤教育及び学部の専門教育を通じて、以下のような知識と能力を獲得した学生に「学士（農学）」の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会性

- （1）環境や農業に関心を持ち、主体的、自律的に学習できる。
- （2）安全な農畜産物の生産を担える人材として倫理観と責任感を持って対応できる。
- （3）地域的・国際的な視点を持ち、社会の要求の解決に向けて他者と協働的に取り組み、より良い社会づくりに貢献できる。

2. 幅広い教養と汎用的技能

- （1）環境や農業の現状を認識し、適切に判断して行動できる。
- （2）設定された条件下で計画的に仕事に従事し、得られた情報やデータを客観的に分析して取りまとめ、それらの物事を論理的に考え、社会に活用できる。
- （3）自らの考えを伝え、幅広く発信できる。

3. 専門分野の知識と技能

- （1）安全な農畜産物の生産に取り組んでいくための総合的な知識及び技術を身に付けている。
- （2）様々な分野の視点における安全な農畜産物の生産に必要な基礎科学と基礎技術に関する知識と、それを応用できる能力を身に付けている。
- （3）安全な農畜産物の生産に必要な専門技術に関する知識と、それを問題解決や研究開発へと応用できる能力を身に付けている。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学及び農学部教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、教育プログラム（安全農産物生産学）では、安全農産物生産学コースの学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 教育課程の編成・実施等

- （1）コースの教育目標を達成するために必要な教育課程を編成する。
- （2）安全な農畜産物の生産に取り組んでいくための総合的な知識及び技術を身に付けるための幅広い分野の科目を配置する。
- （3）様々な分野の視点における安全な農畜産物の生産に必要な基礎科学と基礎技術に関する知識と、それを応用できる能力を身に付けるための専門科目を配置する。
- （4）安全な農畜産物を生産するための専門技術に関する知識と、それを問題解決や研究開発へと応用できる能力を身に付けるための専門科目を配置する。

2. 教育方法

- （1）フィールドでの体験的な実験・実習を重視した、安全な農畜産物の生産に関する科学的な理論の構築と実践的な技術が身に付く専門教育を展開する。
- （2）地域的・国際的な視点で、農業生産現場の課題を捉え、解決に向けて計画的に取り組み、得られた成果を適切にまとめて伝える能力を培うための授業を拡充する。

3. 教育評価

- （1）学習者が到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、コースの教育課程を適時、点検・評価する。
- （2）安全な農畜産物の生産に対する幅広い興味と好奇心を持ち、主体的・自律的に学習に取り組む姿勢を評価する。

【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

農学部は、日本有数の穀倉地帯であるとともに、豊かな自然に恵まれた庄内平野に位置しており、農学、生命科学、フィールドサイエンスなどを学ぶ場として最適の条件を備えています。本学部は食料生命環境学科と附属施設のやまがたフィールド科学センターがあり、21世紀における国内外の諸問題の解決、資源循環・環境調和型社会の創生に取り組む人材育成に向けて、活発な教育・研究を進めています。また、大学院修士課程や博士課程に進学して、学問研究をさらに深める道も開かれています。

農学部の求める学生像及び入学者選抜の基本方針は以下のとおりです。

1. 求める学生像（3つのC）

Challenge : 知的好奇心が旺盛で、自ら課題を発見し、その解決に向かって行動できる人

Cooperation : 自然と人間を愛し、人との出会いを通じて学びあいたいと思っている人

Contribution : 人類社会の直面する食料問題や資源問題、環境問題などに関心を持ち、地域社会及び世界に貢献したいと思っている人

2. 入学者選抜の基本方針

農学部は、1学科6コース制を導入しています。このため、入学者選抜は食料生命環境学科で一括して行います。入学者選抜方法は、推薦入試、一般入試（前期日程・後期日程）があります。

以上のような観点から、食料生命環境学科では、具体的に次のような入学者選抜を実施します。

食料生命環境学科

食料生命環境学科は、1年次に山形市の小白川キャンパスにおいて基盤教育科目と広い意味での農学を幅広く学ぶ専門基礎科目を履修して、2年次の鶴岡キャンパスへの移行に伴い、6コースのいずれかに配属となります。2年次からはフィールドワークや実験を多く取り入れた各コースの特色のある専門的な教育を行います。各コースの概要は、次のとおりです。

【安全農産物生産学コース】

地域や開発途上国で安全な農畜産物の安定生産を実現させるため、持続的で循環型の環境保全型農業生産の科学的理論や方法などについて、フィールドワークを取り入れた教育を行います。

【食農環境マネジメント学コース】

食料、農業、農村、環境の維持・発展を目的に、農業経営やコミュニティビジネスの発展方策や地域活性化手法、食の安全を担保するフードシステムや循環型社会システム構築に関する理論や方策などの教育を行います。

【食品・応用生命科学コース】

生命科学の基礎とバイオテクノロジーを用い、食品と健康、高等動・植物や微生物の機能解明・開発、食品・医薬品・環境産業等への展開利用、バイオマスやバイオエネルギーの高度な利用と応用などの教育を行います。

【植物機能開発学コース】

植物を対象に、遺伝資源学、植物制御化学、ゲノム科学に基づいて、その機能を遺伝子、タンパ

ク質、代謝物質等のミクロな面から解析する方法、植物資源の高度な利用、ストレス耐性植物の開発等のマクロな面への応用などの教育を行います。

【森林科学コース】

循環型社会構築のため、森林の高度な利活用により、生物多様性の保全と持続的資源利用を推進し、低炭素社会の実現を目指すなど、様々な地球環境問題に関して、講義や多彩なフィールドワークを取り入れた教育を行います。

【水土環境科学コース】

自然と調和する農山村整備を実現するため、土台となる土と水の科学技術を環境問題との関わりで広い視野から学ぶとともに、農地を造り・水を確保し・維持・管理する一連の技術を修得するための実践的な教育を行います。

3. 求める学生像

- ・自然に学び、自然について深く考えることのできる人
- ・人類社会の直面する食料問題や資源問題、環境問題などの解決、生命現象の解明に正面から取り組み意欲を持ち、行動できる人
- ・論理的に思考し、表現できる人
- ・基礎的な学力を幅広く身につけている人
- ・数学、理科等の自然科学に関しては、基礎的な知識を修得するだけでなく、それを応用できる人

4. 入学者選抜方法

(1) 一般入試（前期日程・後期日程）

基礎的な学力を幅広く身につけることを重視していますが、特に自然科学（数学や理科）に関しては、それを応用できるかについても評価します。

前期試験では、自然科学の応用力を重視し、大学入試センター試験に加え、個別学力検査（数学・理科（化学）・理科（生物）のいずれか1教科）を課します。

後期試験では、総合的な基礎学力を重視し、大学入試センター試験のみを課します。

(2) 推薦入試Ⅰ

小論文試験では、問題文を理解した上で論理的に思考し、自分の考えを適切に記述できるかを基準に評価します。面接試験では、質問の意図をくみ取り、自分の考えを適切に表現できるかを基準に評価します。また、出願時に提出された志望理由書や内申書をもとに、就学意欲や農学に対する関心等についても評価します。

(3) AO入試Ⅱ

レポートでは、知識よりも自分独自の意見を持ち、その意見を自分の言葉で表現できているかを評価します。

プレゼンテーション（質疑応答を含む。）は、テーマに関する知識、表現力及び「広義の農学」への熱意等について評価します。

面接では、調査書や志望理由書等を基に、基礎的な学力、知識、就学意欲、積極性及びアドミッション・ポリシーの理解度について評価します。